Local Area News

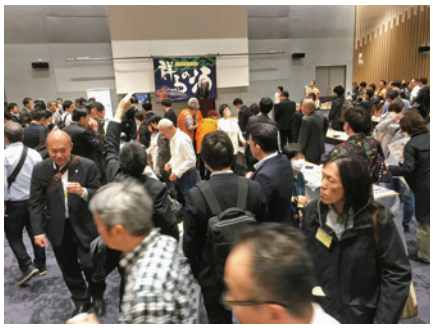
第27回群馬の地酒フェスタ開催

群馬県酒造（協）

４月19日、高崎市・Ｇメッセ群馬において、第27回群馬の地酒フェスタを、500名を超える来場者のもと盛大に開催した。

県内18蔵から51銘柄の出品に加え、群馬県産の原料を使用したオール群馬の地酒「舞風」16銘柄のお披露目も行った。また、会場に飲食店ブースも設け、日本酒に合うメニューを振る舞った。

会場をグルっと囲うように設けた各蔵のブースでは、蔵側が自慢のお酒をPRする一方で、来場者からも、酒造りやお酒の特徴について質問するなど、日本酒談議が其処此処で見られた。



参加者で賑わう会場内の様子

「舞風」は、群馬県の酒造好適米の「舞風」と「群馬KAZE酵母」などの群馬県産酵母、群馬県の「仕込み水」を使用した純米酒。2012年から始まったシリーズで、毎年、この時期を待ち望むお酒好きは多い。

「着物まちあるき」を実施

館林織物連合（協）

４月21日、館林市・武鷹館において、着物姿で館林市内の史跡を巡る「着物まちあるき」を開催した。当イベントは、館林市内の和装愛好家らでつくる「和結（わむすび）まちあるきプロジェクト」と当組合の共催で実施したもの。

参加者は同市の伝統的な綿織物「館林紬（つむぎ）」などの着物を身に着け、建物の歴史や特徴について館林観光ボランティアガイドから説明を受けながら、花街の歴史を伝える建物や寺社などを見て回り、散策を楽しんだ。

ガイドの説明を聞く参加者たち

廃棄物処理業界のＤＸの事例を探る

前橋市一般廃棄物処理事業（協）

５月22日、前橋市・前橋商工会議所会館において、「廃棄物処理・リサイクルに係るＤＸ推進ガイドライン」に関する講習会を開催した。講師は、資源循環システムズ(株)取締役・瀧屋直樹氏。

瀧屋氏は、グリーン化の機運が高まるとともに、静脈産業への注目が集まっている現状を説明。依然として古い商習慣が残っている業界の特徴を指摘し、ＤＸの必要性と有効性を説いた。

また、従来の「廃棄物を顧客の元からなくす」役割だけでなく、「再生材を提供する」役割が今後求められると述べ、こうした新しい価値を生み出す事例として、動脈産業と静脈産業の間でデータ連携し、再生材の利用・循環の最適化を進める取組みを紹介した。

さらに、ＤＸは属人化や人手不足の解消に有効であると説き、波に乗り遅れず挑戦するよう呼びかけた。

解説する瀧屋氏